事例

CSV経営の実践②

安成工務店（山口県下関市、安成信次社長）は、「地域工務店としては国内初」（同社）となる“CSVレポート”を発行した。創立65周年事業として作成したもので、グループ企業6社もあわせて「より良い社会づくり」とリンクして取り組む事業（活動）の成果や状況をまとめ、今後の目標も明示した。CSVは、縮む市場の中でも、働く人のやりがいやモチベーションを保ちながら持続的に企業を成長させるエンジンになり得る。

安成工務店
山口県下関市

持続的な成長のエンジンに 事業の目的を社会ニーズと同軸化

安成工務店の安成信次社長

安成工務店
山口県下関市。社員143人。2015年の年間売上高は約87億円で過去最高を更新。住宅の受注棟数は年間約110棟。グループ全体では社員約270人、売上高150億円余。

社会問題の解決と企業の競争力向上をリンクさせて同時に実現するCSV。その概念に出合ったとき、安成さんは真っ先に「まさにうちがずっと続けてきたことだ」と感じた。同社は創業以来、常に「時代と社会が求めるもの」を指標に事業を行ってきた。

約28年前、太陽熱を利用したOMソーラーシステムを自社の家づくりに取り入れたのをきっかけに、“環境共生住宅”の普及に向けた道を歩み始める。その後は、新聞紙をリサイクルして製造するセルロースファイバー断熱材と同断熱材を用いる工法の独自開発、林産地と連携した地域材活用など、より品質と価値の高い家づくりを追求。その過程で、グループ企業も含めて様々な事業を展開し、拠点も山口県から福岡県へと広げ大きく成長した。

それぞれの事業を横串に貫くのが「豊かで安全な地域をつくる」「資源循環の仕組みを確立する」「美しい自然環境を未来の子どもたちに引き継ぐ」というブレない理念だ。安成さんは「ここ20年余りの間に国内の建設市場は半減しているが、当社は同じ期間にそのフィールドで売上を10倍の規模に伸ばしている」とし、「企業が目指すべき価値や事業目的を社会課題の解決と同軸化することは、企業の成長にとって極めて重要だ」と指摘する。

安成工務店の発祥の地は、現在の下関市北部に位置する山あいの旧豊北町。創業から昭和20～40年代ごろまで、社員は同地で農業を営む人が中心で、複数の作業班からなるいわゆるユニオンのような形態だった。早くから社員持株を実施し、社員の大半が株主であり、経営者と社員といった関係性が創業当初から薄く、「みんなが経営者だ。みんなで豊かになり、地域を良くしていこう」という精神が自然に息づいてきた。

そうした地域性や企業風土に

よって顧客、経営者、社員、協力企業など「人と人とのフラットな関係性」も育まれた。同社はこれを企業経営の基軸に据える。ここにCSVの概念や活動を重ね合わせることで、「一人ひとりが誇りと使命感を持ちながら自ら考えて仕事をする組織づくりにつながる」と安成さんは語る。CSVレポートは、顧客やグループ全社の社員、協力企業らに配布。自分たちが目指す価値とミッションを改めて共有し「一丸となってCSV活動を推進する」かまえだ。

事業を通じて、人々が快適に暮らせる住環境の整備や地域の環境を守る循環型の仕組みの構築、より良いコミュニティの形成といった「工務店ならではの価値」を提供しながら、地域に必要とされる企業としてさらなる成長を目指す。

地域工務店初　CSVレポート発行

安成工務店グループCSVレポート 2016

社会的な課題とニーズを明確化 事業通じて創造できる価値定める

“5つの戦略”に基づき推進

『安成工務店グループCSVレポート2016』は、CSV（共有価値の創造）を目指すグループ全体の取り組みを、「環境保全」「省エネ・省CO_2」「ひと」「健康」「まち・コミュニティ」の“5つの戦略”にカテゴリー分けしてまとめた。それぞれの分野ごとに社会的な課題とニーズを明確化、それに対し自社の取り組み（活動）を通じて創造できる社会的価値を定め、これまでの成果と今後の方針を記載している。より実効的な活動にするため、各活動についてはKPI（主要業績評価指標）による数値目標も設定し、達成状況や課題なども分析している。

CSV戦略1　環境保全

●社会的な課題・ニーズ●

環境共生住宅の推進／林業活性化・国産材の活用／森林の整備／自然由来のエネルギー活用／廃棄物のリサイクル後の安定した活用

●創造できる社会的価値●

「環境共生住宅」による自然環境との調和／自然エネルギーの住宅活用／リサイクル材の効果的活用／国産材の活用による地域林業の活性化

「環境共生住宅」の家づくりを核に、森を守る植林や森林体験ツアーなど、環境保全活動を推進する。環境共生住宅とは、地球環境を保全する観点から、自然素材や自然エネルギーの活用に配慮してつくり、住み手の健康で快適な暮らしを実現しながら、周辺の自然環境に親密に調和する住宅だ。1990年のOMソーラーハウスの取り組みを機に、環境共生住宅の道に大きくかじを切った。OMソーラーを導入した住宅の実績は、2015年12月末までに1062棟。林産地（山口県・大分県）と密接に連携し、「近くの山の木」を使用した地産地消の家づくりも20年間継続。2015年12月末までに累計1816棟を手掛ける。

「自然を未来につなげる」ことを目指す植林活動は2008年にスタート。連携する林産地・大分県日田市の森林で毎年10月に一般参加を募ってスギの苗木の

森林体験ツアーや植林活動を通じて、木の家づくりや森林・林業の大切さを伝えている

自然エネルギーや地域材を活用した「環境共生住宅」の推進により、環境保全に貢献する

プレカットや断熱材の製造工程を公開し、技術と理念の「見える化」に努めている

事例

植樹を行う。これまでに8回開催し、76組240人が参加。累計1940本を植樹した。自社で木の家を建てる顧客に「山のことを知ってほしい」と1997年に始めた森林体験ツアーは56回開催。841組3630人が参加している。

CSV戦略2　省エネ・省CO_2

●社会的な課題・ニーズ●

省エネ・創エネ住宅の普及／ライフサイクルで環境配慮した製品製造／エネルギーの化石燃料依存からの脱却／長期優良住宅の推進

●創造できる社会的価値●

ゼロエネルギー住宅の技術発展と普及／建築業界によるライフサイクル思想推進／自然エネルギーを活用した建築素材の提供／長期優良住宅の普及

ＯＭソーラー採用に加え、1997年には高い断熱性能を発揮するセルロースファイバー断熱材（デコスファイバー）の吹き込み工法（デコスドライ工法）を独自開発した。2016年度からＺＥＨ（ゼロエネルギー住宅）の躯体性能を標準仕様に。新聞紙をリサイクルしたデコスファイバーや天然乾燥材「輪掛け乾燥材」など、製造時にCO_2排出が低い材料を選定。エコビルドとオークス建設のグループ企業では、1台のエアコンで全館暖冷房するMaHAt（マッハ）システムの住宅も提供する。

CSV戦略3　ひと

●社会的な課題・ニーズ●

引き渡し後の住宅メンテナンス／地域活性化／地域住民とのコミュニケーション／建築業界における次世代の育成

●創造できる社会的価値●

定期メンテナンスにより長期的な住宅寿命を維持／地域や住まい手とのコミュニケーション機会創出／建築技術の継承

「ひとがすべて」と位置づけ、顧客・自社・協力企業のフラットな関係によって、より良い建物、より良い社会を築く。引き渡し後の定期訪問は全社員で行い、アフターフォローを徹底。壁体内無結露20年保証制度（デコス）や木材のトレーサビリティ表示（エコビルド）などで顧客サービスと自社責任を強化する。理念やコンセプトの「見える化」、製品・技術に対する信頼性向上を目的に、プレカットや断熱材の製造過程を常時公開。多くの人が見学に訪れる。

自社が分譲した住宅団地では、住民に「えこ畑」を無償貸与するなどコミュニティ形成を後押し。社内の人材育成では、住宅でほぼ100％、一般建築で95％が自社設計施工のため、各種研修など設計スタッフのスキルアップを図り、アーキテクト・コンストラクターを目指す。2015年からは社員大工の養成も開始。

CSV戦略4　健康

●社会的な課題・ニーズ●

住宅における事故の増加／超高齢化社会の到来／増大する医療費の抑制

●創造できる社会的価値●

高齢者に優しい住環境の整備／新しい住宅マーケットの創造／新しい住宅資産価値の付与

高断熱化した家は、ヒートショックによる家庭内急性疾患が抑えられるといった研究成果が報告される中、次世代断熱基準を満たすデコスドライ工法を全棟採用。2012年からは九州大学との共同により、木の家と暮らす人の健康の関係性についての研究を継続的に行っている。

CSV戦略5　まち・コミュニティ

●社会的な課題・ニーズ●

地域住民の交流の場形成／社会市民としての企業の在り方

●創造できる社会的価値●

持続可能な地域の形成／人と人とのつながりによる心豊かな住環境整備

2006年5月に、環境共生技術とまちづくりの理想を盛り込んだ「安岡エコタウン（下関市安岡町）」を40区画の分譲地として開発。各住宅の駐車スペース地下に約2tの雨水タンクを標準設置、住民が無農薬の野菜をつくることができる共同の「えこ畑」を提供するほか、民間の戸建て住宅地では国内初の試みとなったバイオマス燃料（ペレット）の「地域集中冷暖房システム」も一部エリアに導入した。景観をそろえた美しい街並みにするための「建築協定」と、日常的なごみをリサイクルする取り決めとして「環境協定」を定めたことも大きな特徴。先駆的モデルとして注目を集め、これまでに1000人を超える人が視察や見学に訪れている。

家づくりの先のまちづくりを見据え、商業施設や医療モールの開発も手掛ける。また、新聞紙の回収や地域イベント開催への協力や、モデルハウスなどを活用したカルチャースクールの展開によって、地域のコミュニティ活動の活性化にも貢献する。

「安岡エコタウン」には環境や景観、まちづくりに対する思いや技術を詰め込んだ

安岡エコタウンの住民に無償で提供している「えこ畑」。人と人を結び、コミュニティ形成を後押しすることも重要なミッションだ

安成社長（左）とCSVレポート作成を担当した総合企画室の竹藤勲さん

安成工務店グループ

安成工務店（建築全般）
デコス（断熱材・CF工場）
エコビルド（化粧構造材プレカット・住宅）
オークス建設（土地活用・中高層建築・住宅）
ハウスドクター山口（住宅リフォーム・メンテナンス）
ワイズパートナー（不動産）
アスティ・ケア（介護事業）